

取組個票①5年間の取組全体概要

①取組名	取組08	薬都とやま薬用植物栽培工場の構築
②対応する目標・課題	医療産業	
③対応する評価指標・目標値	■評価指標: 製薬関連企業の出荷額	■目標値: 1.617億円(H21年度) ⇒ 2.005億円(H30年度)
④取組内容	<p>健康志向・長寿社会を背景とした漢方薬・生薬ニーズが高まるなか、薬都とやまとして300年以上の歴史や伝統がある富山市の土壌を活かし、安全・安心で安定した供給量を確保するため、「植物工場」の発展形として、最先端のバイオ技術生産管理システムを構築する。栽培は、薬用原料や食品添加物、化粧品原料、甘味料等として用途の汎用性が高い植物である「甘草」のほか、シャクヤクやキク等の数種類の薬用植物も視野に、地元製薬会社のニーズ、医療系大学の知見を活用しながら、適切な品種を選定する。栽培においては、温泉水の熱利用や小水力、太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入、遊休農地の活用も検討し、新たな地域ブランド・地域産業モデルとして確立する。また、これらの取組と合わせて、富山オリジナルブランドの開発など配置薬業全体の活性化を図りながら、医薬品業界全体として医薬品配置員を確保・育成する仕組みを構築する。</p>	
⑤エリア	富山市内	
⑥主体	民間事業者、電力事業者、薬業団体、経済団体、大学等学術研究機関、富山市	
⑦活用した国等の制度	なし	
⑧地域の関与	<p>【実績】・取組に対する富山市の支援等 ・取組に対する地元企業の負担</p>	
⑨スケジュール		
23年度	水耕栽培に適した薬用植物の調査・研究	
24年度	薬用植物の調査・研究	
25年度	事業化に向けた実証実験	
26年度	実証実験の検証、事業化の検討	
27年度	実証実験の検証、事業化の検討	
28年度	実証実験の検証、事業化の検討	
29年度以降	事業実施	
⑩他の取組との連携	<p>取組名: 6次産業化(農商工連携)による環境と健康をテーマとした多様なビジネスの推進 連携内容: 薬用植物の用途としては、食品添加物、甘味料としての活用も可能であるため、6次産業化(農商工連携)の取組と連携を図りながら、新たなビジネスとしての展開を検討する。</p> <p>取組名: バイオマスを使った自律型エネルギー・資源循環システムの導入 連携内容: 藻類バイオマス事業では、藻類からの高付加価値製品として、医薬健康食品等の製品化を取組に入れていることから、藻類バイオマスの取組と連携を図りながら、新たなビジネスとしての展開を検討する。</p>	
⑪自立・自律の方針・目標	<p>生薬の国内自給率は1割程度であり、安定的に確保することが課題となっているが、薬用植物の工場による栽培システムは、天候の影響を受けないこと、土地の高度利用ができること、品質が安定していること、無農薬で安全・安心であること等のメリットがある。現状では生産コストが課題であるが、バイオ技術の導入による高付加価値化(有効成分のアップ)や再生可能エネルギーによるエネルギーコストの削減等によりビジネスモデルとしての確立を目指す。</p>	